

# SharePoint戦略を構築するために必要な 4つの手順

---

著者:  
David Waugh  
SharePoint事業部部長  
Quest Software, Inc.



ホワイトペーパー

© Copyright Quest Software, Inc. 2007. All rights reserved.

このガイドには著作権で保護されている機密情報が含まれています。このガイドで説明されているソフトウェアは、ソフトウェアライセンスまたは守秘義務契約の下に提供されています。このソフトウェアは、適用される契約の条項に準拠している場合のみ使用またはコピーできます。このマニュアルの一部または全部を複製または転送することは、購入者による個人使用以外の目的では、Quest Software, Inc.の書面による許可がない場合、複写および記録を含む電子的または機械的ないかなる手段でも禁じられています。

## 保証

この文書に含まれている情報は、予告なく変更されることがあります。クエスト・ソフトウェアは、この情報に関するいかなる保証もいたしません。クエスト・ソフトウェアは、商品性および特定目的への適合性に関する黙示的な保証については一切免責されるものとしします。クエスト・ソフトウェアは、この情報の提供または使用に起因して申し立てられた、直接的、間接的、付随的、または結果的ないかなる損害についても責任を負わないものとしします。

## 商標

このガイドで使用されているすべての商標および登録商標は、その所有者の財産です。

ワールドワイド本社  
5 Polaris Way  
Aliso Viejo, CA 92656  
[www.quest.com/](http://www.quest.com/)  
電子メール: [info@quest.com](mailto:info@quest.com)  
米国およびカナダ: 949.754.8000

各地域および海外の所在地情報については、本社サイトを参照してください。

最終更新日 - 2007年8月8日



# 目次

目次 .....	1
はじめに .....	1
信頼性の高い SHAREPOINT 管理戦略の構築 .....	2
1. SHAREPOINT のビジョンを作成する .....	2
2. SHAREPOINT がビジネスにとって重要である理由を明確にする .....	3
3. SHAREPOINT の所有権と説明責任を決定する .....	5
4. 組織として SHAREPOINT をどのように管理およびサポートするかを決定する ..	7
結論 .....	12
著者について .....	13
QUEST SOFTWARE, INC. について .....	14
クエスト・ソフトウェア (QUEST SOFTWARE, INC.) へのお問い合わせ .....	14
クエストサポートへのお問い合わせ .....	14

# はじめに

さまざまな組織が効率、競争力、費用効率を高めようと努力していく中で、従業員のコラボレーションおよびコラボレーションを実現するためのテクノロジーが急速に広まりつつあります。最もよく知られているコラボレーションプラットフォームであるMicrosoft® Office SharePoint® Server (MOSS) が売上を最近伸ばしていることが、コラボレーションを効率化してチームの生産性を向上させたいという要求の高まりと、最新のテクノロジーに投資してこの目標を達成したいという意欲を裏付けています。Microsoft社によれば、企業向け統合サーバ機能に対する強力な需要を背景として、2007年度のMOSS事業による売上は8億ドルを超え、2006年度から35%の増加となっています。SharePointが、世界中の組織にとっての戦略プラットフォームとして浮上してきているのは明らかです。ただし、これらの組織が効果的になるためには、拡大するSharePointインフラストラクチャをサポートおよび管理するための包括的な計画を作成する必要があります。

多くの組織で、SharePointを展開して間もなく、その環境を管理する上での課題が浮き彫りになります。多くの場合、SharePointは部門レベルで展開され、ITチームは認識していません。従業員は、SharePointの直感的なグラフィカルユーザインターフェイスを使用することで、ITサポートを必要とせず、数分で独自のSharePointサイトを作成し、公開して運用することができます。このシステムは当面は問題なく動作しますが、展開したSharePointのいずれかで領域が一杯になるか、または何らかのアイテムが誤って削除されてリカバリが必要になると、サポートが必要になります。その際、ユーザはITチームに問い合わせますが、ITチームには、どのようなシステムが展開されていて、そのサイト上でどのような情報が公開されているかを把握していません。ITチームは、後手の対応を強いられ、SharePointをその場で検出して問題を解決しなければなりません。また、ITチームは、適切な戦略または予算もなく、こうした部門ごとに展開されたシステムのすべてを管理することを期待されることとなります。

適切な計画を持たないSharePointユーザをサポートするITチームは、SharePoint環境の正確な情報をほとんど認識していないため、重大な困難に直面します。SharePointの検索、管理、および開発システムをより大規模なITインフラストラクチャに取り込むための適切な計画がない場合、SharePointが深刻な脆弱性になる可能性があります。SharePointはコアITインフラストラクチャの外部にあることが多く、データベース構造、Active Directory、Windowsセキュリティモデル、コンプライアンスなどの問題が考慮されていないため、この脆弱性が外部から攻撃される危険性がさらに高まることとなります。今日のような法令遵守が重視される状況では、ITチームおよび経営者が、SharePoint環境にどのような情報が存在しているのか、どのような人がアクセスするのかを把握しておくことが重要です。

組織がこの状況に直面していても、このホワイトペーパーを読んでいるあなたであれば、SharePoint環境を統制するための有効な手段を講じることができます。最も重要なのは、現在の環境を管理するための信頼性の高い計画と、将来的な拡張に備えた計画を作成することです。

# 信頼性の高い SHAREPOINT 管理戦略の構築

SharePointでは、Windows、IIS、SQL Server、Active Directory、Exchangeなど、組織のインフラストラクチャのさまざまな情報を共有できます。ビジネスの成功者となるために、SharePointを単なる便利なファイル共有ツールとして以上に活用するには、ビジネスにおけるSharePointの重要性を認識し、戦略的な計画を構築する必要があります。すべての関係者がこの計画を議論し、この計画に参加するようにすることが不可欠です。

SharePointの問題を事前に防ぐための効果的な戦略は、バックアップ、リカバリ、管理、および移行を計画するだけでは構築できません。SharePointを使用したコラボレーション戦略を構築するには、SQL Serverを含むプラットフォーム全体を詳細に調査し、その脆弱性をなくしていく必要があります。

## 1. SharePoint のビジョンを作成する

SharePointは通常、一般従業員レベルで導入されます。つまり、ITチームから提供されるのではなく、エンドユーザーによって採用されます。このような現象が起きていて、SharePointの重要性が増していることをITチームが感じ始めている場合は、企業規模のSharePointの展開および管理方法を決定する質問を慎重に検討する必要があります。このビジョンを作成する人またはチームは、以下の質問に回答できるようにしてください。

- 企業規模のコラボレーション戦略はありますか。
- SharePointはこの戦略の一部ですか。SharePointは戦略そのものですか。
- SharePointをチームコラボレーションツールとして使用するだけでなく、内部アプリケーション、外部に公開するアプリケーション、およびサプライヤとのB to Bアプリケーションを取り込むためのツールとして使用しますか。
- 既存のアプリケーションをSharePointベースのアプリケーションに変換しますか。それとも、SharePointを新しいアプリケーションのためだけに使用しますか。
- その他のコラボレーションテクノロジーとSharePointを統合しますか。
- SharePointの計画を、企業全体のより大規模な情報アーキテクチャにどのように適合させますか。
- SharePointの拡張をどのように管理しますか。
- SharePoint内で大量の情報を共有するときに発生する問題の一部に対処するために、適切な管理ツールおよびフレームワークを適切に展開するためにどのようなことをしますか。

SharePointを十分に理解してその可能性を最大限に引き出すために、SharePointをアプリケーションではなく、ほかのプラットフォームの最上位に構築するプラットフォームとして発想することをお勧めします（ただし、アプリケーションはSharePoint上に実装します）。SharePointは、多くの場合、アプリケーションと考えられています。これは、チームコラボレーションや個人用サイトなど、SharePointの機能がそのまま使用されているためです。これでは、SharePointを最大限に活用していることにはなりません。このプラットフォームは、独自のアプリケーションを柔軟に作成できるようにさまざまな機能を備えています。たとえば、SharePointに組み込まれているCRM（Customer Relationship Management）システムは、SharePointプラットフォーム上に構築されるアプリケーションです。SharePointに用意されている機能とテンプレートをそのまま使用する場合も、企業のあらゆるコラボレーションアプリケーションの戦略プラットフォームとしてSharePointを使用する場合も、次に、SharePointを企業規模で十分に活用するためにどのようなツールセットが必要かを判断する必要があります。

企業でSharePointをどのように使用するかのビジョンを作成するときは、そのテンプレートとWebパーツだけでは、SharePointオブジェクトモデルの機能を十分に活用していることにはならないことを忘れないでください。SharePointの利点は、事実上オープンエンドのプラットフォームになっているので、あらゆるレベルのカスタマイズを行うことができる点にあります。最も単純に展開する場合は、SharePointに用意されている機能だけを使って、簡単なチームコラボレーションなどを実装します。高度な方法で展開する場合は、[www.hawaiianair.com](http://www.hawaiianair.com)のようにあらゆる機能を備えたWebサイトを取り込んだりします。この豊富な機能のサイトは、すべてMOSS 2007上で構築されています。

SharePointのその他の使用例として、CRMシステム、従業員費用請求システム、ヘルプデスクシステム、複雑なプロジェクト管理システム、ビジネスインテリジェンスシステム、人事管理システム、グローバルドキュメンテーションシステム、社内データと社外データを統合するアプリケーション（主要な業績指標を確認するためのエグゼクティブダッシュボードなど）、注文処理システムなどがあります。

SharePointプラットフォームサービスを利用してアプリケーションを開発すれば、まったくの新規に開発する場合に比べて、費用が大幅に少なくて済みます。しかし、SharePointの開発者が不足している組織では、費用が増大し、SharePointの普及がなかなか進みません。そのような場合でも、他社製の開発ツールを使用することで、SharePointで複雑なアプリケーションを構築することができます。また、このようなツールを使用することで、既存のテンプレートをカスタマイズしてプラットフォームを最大限に活用し、同時に開発および保守費用を大幅に削減することができます。

## 2. SharePoint がビジネスにとって重要である理由を明確にする

多くの組織で、SharePointの導入がエンドユーザから始まり、組織全体に普及していくことを説明してきました。SharePointが組織全体に普及するにつれて、ITチームはその動きに対応していかなるを得なくなります。ユーザはSharePointに格納されるコンテンツに依存度を高めるにつれて、それらの日常業務にとっての重要性が増していきます。SharePointの問題を事前に防ぐための計画を作成するには、SharePointがこれらの業務にどのような影響を与えているか（または影響を与える可能性があるか）を最初に把握する必要があります。

## 環境を正確に把握する

最初に、SharePointが組織のどこにあるのかを把握する必要があります。サーバ上の数、サイトコレクション内の数、およびチームサイトまたは個人用サイトとしての数をそれぞれ調べます。最近まで、SharePointが組織にどのように展開されているかを把握することは、ほとんど不可能でした。SharePointには、2003または2007、Windows SharePoint Services (WSS)、SharePoint Portal Server (SPS)、MOSSなどの複数のバージョンが存在するためです。しかし、他社製ツールを使用して、すべてのSharePointインスタンスを自動的に調査してレポートを作成できるようになったので、ITチームは1つの画面でSharePoint環境全体を正確に把握することができます。

クエスト・ソフトウェアは、SharePointを自動的に検出するツールを2006年に開発したときに、IT部門の予想と違って、実際にははるかに多くのSharePointが使用されていることに気付きました。IT部門は当初、会社全体に約30~40のSharePointサイトが存在すると見積もっていました。クエスト・ソフトウェアが独自のツールで調査を完了すると、1,000を超える膨大な数のサイトが検出されました。自分の組織で行った場合に、どのような結果になるかを想像してみてください。

## SharePointがどのように使われているかを分析して、今後の増加について計画し、効率の向上を図る

SharePointの検出が終わったら、次に、SharePointが組織でどのように使用されているかを把握する必要があります。たとえば、SharePoint環境全体を分析して、ユーザの操作の統計、サーバの状態、アクセス権などを詳細に把握するために、SharePoint環境全体を分析します。これらの情報を定期的に収集して分析することで、SharePointの数が増えてもコラボレーションに問題が起きないように、今後の増加数についてより正確に予測して計画を作成することができます。

これらの情報によって、改善できる領域が判明する場合があります。たとえば、SharePointの複数のサーバまたは場所を統合すると、費用が節約され、効率が向上することがわかる場合があります。バージョンを2003から2007にアップグレードするときに、同時に統合できることがわかる場合があります。

## コラボレーションアプリケーションを統合する

SharePoint環境の調査、把握、分析が終了したら、最適なコラボレーション計画の構想を判断することができます。組織の適切な構造の計画を作成するときは、SharePointビジョンに準拠しつつ、以下の点を考慮する必要があります。

- SharePointのWebファームを1箇所に展開しますか、分散して展開しますか。
- パブリックフォルダ、ファイル共有、Lotus Notesなどの場所で共有されているすべてのデータをSharePointに移行しますか。
- それらの共有データを移動する代わりに統合しますか(レガシーシステム、CRMパッケージ、会計ソフトウェアを移行するときは、このようにすると効果的な場合があります)。

情報を1箇所で集中管理または統合し、1つのインターフェイスからそこにアクセスできるようにすると、SharePoint戦略が非常に強力に効果的になります。さらに、計画の大部分が作成されることとなります。

### 3. SharePoint の所有権と説明責任を決定する

SharePointの所有者を決定することは簡単なことのように思われますが、多くの組織やIT部門は所有者を決定していません。多くの場合、IT部門全体が担当になります。場合によっては、ITチームの最も忙しくないメンバーが担当することになります。たとえば、VIP（会社のCOOなど）からSharePointアイテムのリカバリを求められたときに、このようになります。このような計画は、拡張可能な管理計画ではなく、多くの時間を浪費し、生産性を大きく損なう可能性があります。

SharePointの所有権を定義することは、非常に複雑な作業になることがあります。実用的で効果的なSharePoint戦略を導入するためには、非常に重要な手順です。SharePointの所有権は、このプラットフォームを所有する人だけの問題ではありません。SharePointの所有者またはチームは、あらゆる目標を達成してセキュリティを維持するために、IT組織および経営者と緊密に連携する必要があります。

これから、SharePoint戦略のすべてまたは一部を所有する役割について説明します。これらの役割は、すべての計画で考慮する必要があります。

#### IT管理者

通常は、SharePointのデフォルトの所有者になります。さまざまなプロセスやプロシージャは、一般的にIT管理者が開発することになります。この方法でも短期的には問題ありませんが、ほとんどの組織のSharePointは、Active DirectoryやExchangeなどのITインフラストラクチャと同様に、もっと重視される必要があります。

#### SharePoint管理者

プラットフォームが使用されることが多くなり、ビジネスにとって戦略的に重要になると、組織として完全なサポートを提供するために、プラットフォーム担当の人員またはチームが必要になります。この担当者またはチームは、インフラストラクチャのうちSharePointが影響する部分（ハードウェアとソフトウェア、ネットワーク帯域幅、記憶領域、失われたアイテムやサイトなど）の問題を、事前に防ぐ必要があります。サイトの場所、アクセス権、失われた情報など、さまざまなことに関するサポート要求が組織から寄せられます。このチームは、これらの要求に対応しながら、プラットフォームを継続的に拡張するための計画を作成する必要があります。これらの作業を自動化し、メンバーに委任できるようにすることが、チームの成功にとって重要になります。

## SQL Server**管理者 (DBA)**

SharePointはSQL Server上に構築されるため、計画を作成するときにSQL Serverの管理を含めることが重要になります。SharePointのパフォーマンスは、SQL Serverデータベースの影響を大きく受けるため、適切に管理する必要があります。

SharePoint管理者がSQL Serverを管理しない場合でも（ほとんどの場合は管理しない）、SQL Serverの管理者またはチームと緊密に協力する必要があります。SQL Server管理者は、組織のSharePointがどのようにSQL Serverに影響するかを理解する必要があります。たとえば、SQL Server管理者が容量の計画を適切に作成するには、SharePointの数が将来どのくらい増加し、どのような情報がコンテンツデータベースに格納されるかを知っている必要があります。

## Web/IIS/.NET**開発者**

Web開発者は、経営者からの要求に応えるために、SharePoint上のアプリケーションをカスタマイズします。このため、戦略的なSharePointプラットフォームを設計するときに、Web開発チームが効果的に協力してくれる可能性があります。ただし、一般的に戦略の所有者ではありません。

## Exchange**管理者**

MOSSに移行すると、Exchange Serverの予定表とパブリックフォルダが移行されるので、Exchange ServerがSharePointと緊密に統合された状態になります。Exchange管理者は、Exchangeのデータとプロセスをどこに置けば従業員にとって最も便利で、どのようにすればそれらが最も効率的に動作するかを判断する必要があります。SharePoint管理者と連携して、Exchange管理者は、一般的にSharePointの所有者ではありませんが、全体的な計画および戦略を作成するときには参加してもらうことになります。

## **経営者**

組織によっては、経営者がチームのコラボレーションのために信頼性の高いコラボレーションツールを必要としていて、SharePointがその目的に適しているという理由で、SharePointが導入されたケースもあります。しかし、経営者はSharePoint環境の管理をほとんど考慮しなかったため、IT環境が攻撃される危険に晒されています。たとえば、定期的なバックアップまたはリカバリ計画を持たない環境は、重要なデータが誤って削除されたりサーバが停止するなどの障害に無防備になっています。ただし、特定のサイトのアクセス権を定義したり、サイト全般のレイアウトと構造を設計するなど、一部の管理および保守作業に経営者が行うようにすれば、SharePoint管理戦略で経営者が重要な役割を果たせる場合があります。

## コラボレーションマネージャ

多くの組織では、複数のテクノロジーを利用してコラボレーションを行っています。たとえば、大規模で複雑な文書管理システム、オフラインコラボレーション、インスタントメッセージング、一部の電子メールなどが利用されています。多くの場合、コラボレーションマネージャがそれらをまとめて管理しており、総合的なコラボレーションビジョンを持っているので、SharePoint戦略の所有者の適任者です。

## SharePointアプリケーションの設計者

SharePointアプリケーションの設計者は、どのような場合にSharePointを使用できるかを理解しています。組織としてどのようなアプリケーションをどこに構築し、それらの管理、データ移行、開発、および保守のためにどのようなことが必要かを決定するときは、設計者に参加してもらうことをお勧めします。プラットフォームの拡張について重要な知識を持っているので、それらの情報をSharePoint戦略に取り入れることができます。

## セキュリティとコンプライアンスのマネージャ

SharePointには、あらゆる種類の企業情報を格納でき、独自のアクセス制御機能が用意されているので、セキュリティとコンプライアンスの問題が発生する可能性があります。セキュリティとコンプライアンスのマネージャは、SharePointに格納されている情報が社内のガイドラインおよび社外の法規制にどのようにすれば準拠できるかについて、助言することができます。

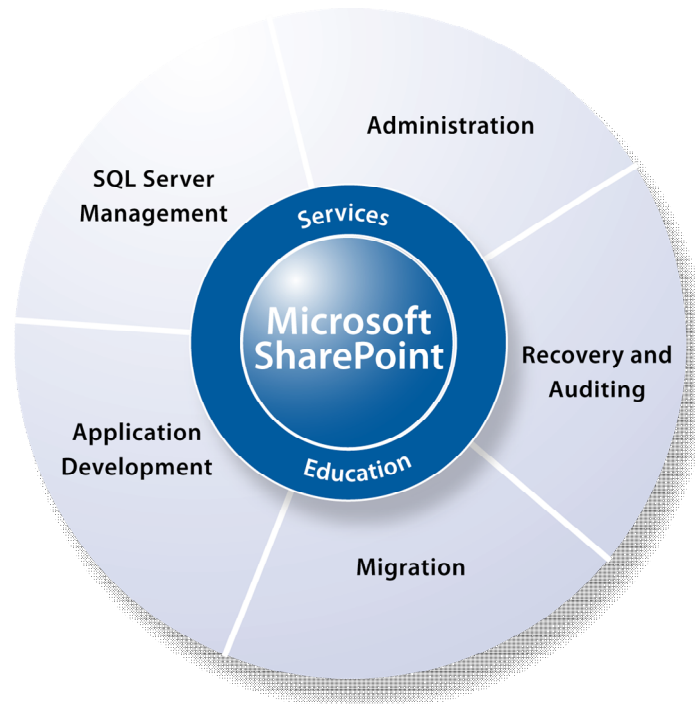
すべての関係者をまとめるのは、非常に難しい場合もあります。小さなことから始め、組織の中でどのグループがSharePointを最もよく利用しているかを把握すれば、徐々にSharePointを管理する態勢に移行することができます。

SharePointの説明責任については、1つのモデルをすべての組織に適用することはできません。しかし、従業員の効率を向上させることを専門に担当する人またはチームを配置することは、信頼性の高いSharePoint戦略を作成するために重要なことです。

## 4. 組織として SharePoint をどのように管理およびサポートするかを決定する

SharePointを展開することは、ネットワーク帯域幅や共有ストレージなど、ITチームが監視するリソースに直接影響を与えます。多くの場合、サポートの要求が増加します。最悪の場合、包括的なバックアップ戦略を持たない組織では、相当量の情報が失われます。SharePointアプリケーションがネットワークリソースのボトルネックになることもあります。この状況になると、システム全体のパフォーマンスが低下するだけでなく、問題を特定するためにネットワーク管理者の貴重な時間が浪費されます。このため、効率的なSharePoint管理とインフラストラクチャサポートを計画に取り入れることが、戦略を作成する上で4番目に重要な手順となります。

戦略を構築するときは、以下の点を考慮してください。



- **管理** - SharePointの検出、レポート、および利用状況分析のための計画はありますか。
- **リカバリと監査** - 失われたアイテムをリカバリするための計画はありますか。組織として最善のコンプライアンスをどのように実現しますか。SharePointを組織のコアITインフラストラクチャの中でどのように管理しますか。
- **移行** - ファイル共有、パブリックフォルダ、Lotus Notesなどのソースの情報を含めて、SharePointを企業全体のデータのメインリポジトリにしますか。
- **アプリケーション開発** - 組織としてSharePointをどのように使用しますか。どのようなアプリケーションがSharePoint上で構築される可能性がありますか。
- **SQL Serverの管理** - 組織として、SQL Serverを適切に管理し、SQL Serverのバックエンドに影響する容量やその他の問題のための計画を作成していますか。

## 管理

SharePointの日々の管理には、企業規模でどのようなサイトが存在し、それらがどのように管理されるのかを把握することも含まれます。SharePointの問題を事前に防ぐチームは、利用状況を分析することにより、問題を予測し、エンドユーザがSharePointを問題なく継続的に実行できるようにします。

## バックアップとリカバリ

SharePointデータのバックアップとリカバリは、あらゆるSharePoint環境で絶対に必要なことです。ごみ箱などのWindowsに用意されている復元方法によって、いくつかのバックアップとリカバリ機能を利用できます。しかし、SharePoint内のデータを保護するには、問題を事前に防ぐことができ、操作が単純で効果的かつ包括的なバックアップおよび復元プロセスを実装する必要があります。定期的なバックアップをスケジュールする機能と、バックアップサイズを小さくするためにデータを圧縮する機能を最初に利用してみることをお勧めします。ファイルまたはサイトを復元する前に、どのバックアップを使用し、どのデータを復元する必要がある、どのような計画で復元するかについて慎重に検討してください。

## 監査、セキュリティ、およびコンプライアンス

コラボレーションは、本質的に「オープン」プロセスです。データの所有者がSharePointを使用して情報の共有を始めるときは、その情報が機密性を持つかどうかや誰がその情報にアクセスするかを考えていません。この結果、多くのセキュリティとコンプライアンスの問題が発生します。セキュリティとコンプライアンスのマネージャからの助言を取り入れてSharePointの戦略的計画を作成するのは、このことも大きな理由になっています。

これは重要なことですが、SharePointのセキュリティはWindowsプラットフォームまたはActive Directoryプラットフォームのセキュリティモデルによって保護されている、とSharePointを担当するITチームは考えています。多くの場合、これは事実と異なっています。SharePointはほとんどのITインフラストラクチャにとって比較的新しい技術なので、SharePointのセキュリティとコンプライアンスのリスクを軽減するための計画を企業のコンプライアンス戦略に取り入れる必要があります。

## 移行とアプリケーション開発: SharePoint上での標準化

複数のSharePointサーバやWebファームを結合するだけでは、標準化が完了しないことがあります。場合によっては、データをSharePointに移行したり、外部の基幹システムのデータをSharePointに統合したりする必要があります。標準化では、データを移行したりSharePointに統合することにより、SharePointのコンソールであらゆることができるようにすることを目標にするべきです。

SharePointにデータを統合する作業は、面倒なことのようと思われるかもしれませんが、統合にどのような利点があったとしても、既存のアプリケーションをSharePoint（またはそれ以外の場所）に移行する作業を適切に管理しなければ、やはり業務を混乱させる可能性があるのです。代わりに、フロントエンドのSharePointを組織のさまざまなバックエンドアプリケーションに統合することにより、移行の実施時期を遅らせたり、一定の期間に分散することもできます。

フロントエンドがSharePoint上で標準化されると、ユーザは1つのプラットフォームで一貫性のある作業を行えるようになり、ITチームは必要に応じて一部またはすべてのバックエンドアプリケーションの移行を開始できる状態になります。最も優れた戦略として、こうしたバックエンドに関する決定をユーザ側をわずらわせずの実現できれば、リスクを軽減しながら、ユーザの操作を1つのプラットフォームに統合することができます。また、1つのプラットフォームに統合することで、メンバーの割り当てやサポートが容易になり、多くのリソースの問題が解消されることも、利点として挙げられます。

## SQL Serverの管理

SharePoint環境のバックエンドの管理は、SharePointを企業全体で適切に機能させるために重要なことです。組織として、SQL Serverのパフォーマンスの最適化、管理作業の簡素化、およびSQL Server環境の可視化と完全な管理を同時に実現するための対策を講じる必要があります。

## バックアップ

バックアップが重要であることは、すべての人がわかっています。しかし、本番環境のデータベースを定期的にバックアップしていないIT企業に出会うことは、珍しいことではありません。バックアップをまったく実行していないこともよくないことですが、バックアップは実行しているけれども、正常に機能することをテストして検証しないまま実行していることも同じくらいよくないことです。SQL Serverのバックアップが常に適切に動作し、常に実行可能な状態であることを確認することは、SharePoint戦略にとって単純ですが重要なことです。

## 容量

SharePointには、ユーザの膨大な量のデータが格納されます。SQL Serverバックエンドの容量管理を考慮しない場合は、文書オブジェクトやリストオブジェクトの大幅な増加、不適切なアクセス権モデル、不必要なサイトなどが原因で、SharePoint環境が間もなく管理できない状態になる可能性があります。容量を計画および分析することにより、使用量がどのように増えているかを把握できるため、より効果的に使用量の増加に備えることができます。

## サポート要求の管理

管理されていないSharePointインフラストラクチャのサポートは、ITチームにとって多くの工数を必要とする作業になることがあります。特に、存在していることをまったく知らなかったSharePointサイトについてサポートを要求された場合は、その可能性が高くなります。また、SharePointが使用されることが増えるにつれて、サポート要求も確実に増えていきます。IT部門では、削除されたSharePoint情報を復元したり、アクセス権を設定したり、サイトの独自の機能を構築することを要求されるのが一般的です。ITチームは、環境に関するデータと知識が少しでもあれば、それらに基づいて計画を作成してより適切なサポートをエンドユーザに提供できます。

## ネットワーク帯域幅と記憶領域

SharePointでは、バージョン履歴を記録するために、平均の2～3倍の記憶領域がファイル共有ドライブとして消費される可能性があります。多くのIT部門で、SharePointサイトが急増してネットワーク帯域幅全体が消費されていることを突然報告される、ということが繰り返されてきました。SharePointをサポートするために必要な要件とリソースを理解することで、それらの増加を自動的に管理することができます。

## 結論

SharePointベースのコラボレーションは、今日のビジネスにおいて戦略的にますます重要な役割を果たすようになってきています。SharePointの問題をその場しのぎで処理したり、そのとき手の空いているメンバーに割り当てるといった方法では、もはや受け入れられません。このプラットフォームを効果的に管理および保護するには、明確なSharePoint戦略と、その戦略を管理するためのプロセスとツールが必要です。これらのアイテムを整備しているITチームは、戦略を実行する上での生産性を向上させ、SharePointに格納されているビジネス情報の重要なライブラリを確実に保護することができます。

SharePoint戦略の構築に時間をかけるITチームと経営者は、展開した後も、長期に渡ってプラットフォームを管理する態勢をより適切に整えることができます。組織として効果的な戦略を作成するには、以下の4つの手順に従う必要があります。

### 手順1: 組織のSharePointビジョンを作成します

現在、SharePointが組織で実際にどのように使用されているのかを把握します。

### 手順2: 組織にとってSharePointが重要である理由を明確にします

SharePointが組織にとって重要である理由を明らかにします。これにより、所有権をより適切に割り当て、プラットフォームの管理および関係者のサポートをより適切に計画することができます。

### 手順3: SharePointの明確な所有権を割り当てます

組織のSharePointによって、さまざまな関係者が影響を受けます。組織内でSharePointを最もよく利用するグループを把握してから、徐々にSharePointを管理する態勢に移行していきます。

### 手順4: SharePointを管理およびサポートするために、企業全体にとって効果的で明確な計画を作成します

SharePointが組織のインフラストラクチャとリソースにどのような影響をもたらすかを把握します。こうした情報があれば、リソースを追加する必要がある重要な分野や、組織に最も利益をもたらすツールを特定することができます。

これらの点を慎重に検討することで、SharePoint環境の強力な戦略的計画を構築し、このコラボレーションプラットフォームの可能性を最大限に引き出すことができます。

# 著者について

David Waugh

Quest Software、SharePoint**事業部部長**

David Waughは、クエスト・ソフトウェアのSharePointおよびコラボレーション向けソリューションを担当しています。Waughは、1998年からFastLane Technologies社でマーケティング部部長を務め、2000年6月のクエスト・ソフトウェアによるFastLane Technologiesの買収に伴い、クエスト・ソフトウェアに入社しました。Waughは、技術およびマーケティングに関する広範なバックグラウンドを持ち、以前はHummingbird Communications Ltdのビジネスインテリジェンス部門のプロダクトマーケティングを管理していました。それ以前には、マーケティング、製品管理、および製品開発の分野でさまざまな役員および管理職を歴任しました。

Waughは、1985年に西オンタリオ大学でコンピュータサイエンスの学士号を取得しています。また、大学院にも進み、ジェームスクック大学でコンピュータサイエンスを学び、教鞭も執りました。ジェームスクック大学の講師として、Waughは、コンピュータサイエンスのコースを設け、指導にあたり、コンピュータサイエンス学部の創設にも尽力しました。

# QUEST SOFTWARE, INC. について

クエスト・ソフトウェア (Quest Software, Inc.) は、組織のアプリケーション、データベース、およびWindowsインフラストラクチャのパフォーマンスや生産性をより高めることができる革新的な製品を提供しています。IT運用の深い専門知識と最高の機能を常時提供することで、クエスト・ソフトウェアは、全世界の50,000を超えるお客様のエンタープライズITに対するより大きな期待に沿えるよう努めています。クエスト・ソフトウェアの製品は、世界中のオフィスで使用されています。詳細については、[www.quest.com](http://www.quest.com)を参照してください。

## クエスト・ソフトウェア (Quest Software, Inc.) へのお問い合わせ

電話: 949.754.8000 (米国およびカナダ)  
電子メール: [info@quest.com](mailto:info@quest.com)  
住所: Quest Software, Inc.  
ワールドワイド本社  
5 Polaris Way  
Aliso Viejo, CA 92656  
USA

Webサイト [www.quest.com](http://www.quest.com)

各地域および海外の所在地情報については、本社サイトを参照してください。

クエスト・ソフトウェア株式会社 (Quest Software K.K.) へのお問い合わせ

電話: 03-5771-8620  
電子メール: [japansales@quest.com](mailto:japansales@quest.com)  
住所: 〒107-0062  
東京都港区南青山 3-1-3  
大手町建物青山ビル 8F  
Web サイト: <http://www.quest.com/japan/>

## クエストサポートへのお問い合わせ

クエストサポートは、Quest 製品の試用版をお持ちのお客様、または製品版を購入し、有効な保守契約書をお持ちのお客様がご利用いただけます。クエストサポートは、弊社の Web セルフサービスである SupportLink で、24 時間体制のサービスを提供しています。SupportLink( <http://www.quest.com/japan/support/> )を参照してください。

SupportLink では、以下のことが行うことができます。

数千のソリューション（ナレッジベースの記事/文書）をすばやく検索できます。

- パッチとアップグレードをダウンロードできます。
- サポートエンジニアにサポートを依頼できます。
- ユーザ事例をログに記録および更新し、その状況をチェックできます。

サポートプログラム、オンラインサービス、連絡先情報、およびポリシーと手順についての詳細な説明については、『Global Support Guide』を参照してください。このガイドは以下で入手できます。 [http://www.quest.com/japan/support/Global Support Guide 2.5\(J\).pdf](http://www.quest.com/japan/support/Global%20Support%20Guide%202.5(J).pdf)